

第11回「日本語大賞」

テーマ「おもしろい日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「センガンフォーム」

神奈川県
湘南ゼミナール 鷺沼教室
小学5年 新井 悠太

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

セミの声が鳴りひびく夏休み間近のある暑い日。二年生のぼくは、学校で作った作品をかかえて坂を駆け上がった。

家のドアを開けたとたん、「センガンフォーム」ときけば、お母さんに作品を見せる。少し間が空いた。するといきなりお母さんに笑われた。ぼくは「あれ」と思った。笑われたわけが分からなかったからだ。

作品とは、トイレトーパーのしんとセロテープで作ったもので、ぼくがかつてにマシンガンに見立てたものだ。ぼくはセンガンフォームの意味を知らないまま、力強い戦隊もののアニメに出てくる武器の名前にありそうで、その作品にイメージが合っていたので、そう名付けた。

かつこいい名前だと思っていたけれど、お母さんに笑われ、「洗顔フォーム」の本来の意味を教えてください、ショックだった。まさか顔を洗うただの泡石けんのことだとは思いませんでした。

それでもぼくは、ふざけて、その後も「センガンフォーム」の発音の仕方や音程を変えて名前そのもので遊んでいた。

言葉は本来の意味とはちがっても、音や語感で新しい表現を生み出すこともあり、他人を楽しませたり、遊んだり、笑いを作ったりすることもできる。ぼくにとっては音のおもちやのようなものだ。